

提 案 説 明（要旨）

令和 8 年

9 月越前市議会定例会

【 市 政 運 營 所 信 】

本日ここに、令和 8 年 9 月越前市議会定例会が開会され、提案いたしました令和 8 年度 9 月補正予算案をはじめ、各種案件のご審議を賜りたく、市政の諸課題についてご説明申し上げます。

まず、7 月 28 日の熊本地震及び 8 月 13 日の千葉豪雨により、お亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された全ての方々に心よりお見舞いを申し上げます。

また、先週 27 日の石川県及び富山県に続き、昨日 30 日には福井県内でも豪雨被害が発生しました。本市においても、いち早く災害対策本部会議の開催を指示し、情報収集や関係機関との連絡調整を行うなど、災害対応に万全を期すとともに、市内の被害状況の把握に努めているところです。

このように、近年、自然災害は全国各地で相次ぎ、その激甚化・頻発化が顕著となっています。本市では、熊本地震への支援として、給水車や職員の派遣をはじめ、義援金の募集などを行ってまいりました。今後も被災地に対し、状況に応じた必要な支援を継続してまいります。一方で、こうした災害は、本市においても、安全・安心なまちづくりの重要性を改めて認識させるものです。市民の命と暮らしを守ることを市政運営の根幹に据え、まちづくりを進めてまいります。

それでは、一人一人が未来への希望を持ち、自分らしく暮らし続けられるまちの実現に向け、5 つの基本理念に沿って、所信を申し上げます。

1 つ目として、「明るい」ふるさとづくりについて申し上げます。

ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟を契機に、本市の価値と地域資源を改めて見つめ直し、未来へつなぐ施策を展開しています。

千年未来工芸祭は豪雨の影響で 8 月 29 日のみの開催となりましたが、県内外からの多くの来場者でにぎわいました。越前打刃物の事業所 20 社が集結して展示販売を行った特設ブースをはじめ、過去最多となる 233 ブースにおける物販・体験・実演のほか、丹南地域の伝統工芸の若手職人による作品の展示販売を行いました。また、ユネスコ創造都市ネットワークのクラフト&フォークアート分野に国内で認定されている金沢市と丹波篠山市にも出展いただき、互いの文化の交流を図るとともに、3 市の魅力を発信しました。作り手と来場者が直接触れ合う本イベントで、越前和紙・越前打刃物・越前筆筒の本市伝統工芸をはじめと

した、ものづくりの魅力と技をより多くの方に体感いただけたと考えています。

また、「第75回たけふ菊人形」は、「越前妖怪物語～ちょっと怖い、でも楽しい。～」をテーマに、10月9日から11月8日までの31日間開催します。ポスターには市内にアトリエを構える世界的な妖怪絵師マット・マイヤー氏が描いた妖怪が登場するほか、会場内では河童や天狗など、市内に伝わる妖怪物語を菊人形で表現します。さらに、武生青年会議所によるナイト菊人形の開催のほか、市内高校生や仁愛大学など、若者が企画したイベントを実施することで、来場された皆様の驚きや楽しさにつなげます。

加えて、かこさとしさん生誕100年と中央図書館開館20周年という節目を捉え、加古総合研究所と連携し、中央図書館で、武生中央公園「だるまちゃん広場」をテーマとした企画展やクイズラリーを実施します。中央図書館、かこさとしふるさと絵本館「硯」、武生中央公園内施設の回遊を促進するとともに、かこさんの功績と本市の文化資源の魅力を発信します。

さらに、市内の書家の皆様を中心とした「チーム書のまち」とともに、書のまちづくりを進めています。その一環として、9月5日に第1回「現代の寺子屋」を金剛院^{こんごういん}で開催します。市内の寺院や文化施設を中心に、誰もが気軽に書に触れられる学びの場として展開するもので、こども向け書道体験や武生高等学校書道部のパフォーマンスを予定しています。さらに、10月18日には引接寺^{いんじょうじ}で書道体験を行います。12月には、日本の「書道」のユネスコ無形文化遺産登録が見込まれることも視野に、書を通じたつながりが日常となるまちを目指します。

国府発掘プロジェクトでは、5箇年計画の4年目となる今回の調査は、9月7日から正覚寺^{しょうがくじ}境内で実施します。週末のみ参加可能な方にも配慮し、休日にも調査日を設定しています。市民ボランティア46人の皆様と国府跡地特定につながる手がかりの発見に向け調査を進めます。

また、武生公会堂記念館では、9月4日から10月12日まで、戦国の世に越前府中を治めた不破光治^{ふわみつはる}、佐々成政^{さっさなりまさ}、前田利家^{まえだとしいえ}らの足跡をたどる企画展「府中三人衆と越前」を開催します。府中三人衆の歴史や、金沢市の伝統工芸発展との関わりを紹介します。

市の歴史資源や文化的価値を広く発信するとともに、市民の皆様が、郷土へ

の理解と愛着を深める機会の創出に努めます。

そのほかにも、市内では、武生国際音楽祭や源氏物語アカデミーをはじめとする文化芸術事業、「西村幸夫町並み塾」などによる歴史的景観や地域資源の活用、モノづくりフェスタを通じた地場産業や優れた技術の発信など、多彩な事業を年間を通じて展開します。さらに、8月にタイで開催された「タイ・クリエイティブシティ・ネットワーク・フォーラム」を皮切りに、9月のオンライン参加によるブルガリアでのユネスコ創造都市ネットワークのサブネットワーク会議、11月にモロッコ・エッサウィラ市で開催されるユネスコ創造都市ネットワーク年次総会などにおいて、本市の魅力を国外にも発信し、国際的なネットワークのさらなる深化を図ります。創造都市推進協議会での議論を踏まえ、こうした国内外の交流を通じ、市民や事業者、関係団体の皆様とともに、人と文化と産業をつなぎながら、新たな価値を創出する「創造都市・越前市」の歩みを前へ進めてまいります。

こうした文化や歴史、交流を支えるためには、市民の安全と安心が何より重要です。

共助による防災体制を推進するため、8月25日に、自主防災組織リーダー育成研修会を開催しました。区長や自警消防隊、自治振興会役員、市防災士の会など、地域における自助・共助の中核を担う皆様、426人が参加しました。また、近年、大雨による被害を経験した西地区では9月12日に、栗田部地区においては27日に、地区住民が参加する水防訓練を行います。情報伝達訓練や土嚢設置訓練のほか、西地区では市建設業会の協力の下、大型水嚢設置訓練も実施します。訓練を通じて、共助の意識を高め、地域防災力の向上を図ります。

交通安全については、9月6日に、まさかりどんの館で「越前市交通安全フェスタ」を開催します。市内で交通安全啓発活動を推進する団体や企業などが12種類の啓発ブースを出展し、こどもから大人まで楽しみながら交通安全について学ぶことができます。交通事故のない安全・安心なまちづくりに向け、多くの市民の皆様にご参加いただきたいと考えています。

2つ目として、「前向きに」夢と誇りを持てる産業と担い手づくりについて申し上げます。

北陸新幹線開業によって生まれた新たな人の流れを地域の発展へと結び付けるため、交通基盤の充実と産業振興を進めています。

越前たけふ駅パーク＆ライド駐車場については、新幹線や高速バス利用者が使いやすく、安心して駐車できる環境を整えるため、有料化に向けた準備を進めています。現在、事業者選定を行っており、来年１月１５日の有料化開始に向けて着実に環境整備を進めます。

公共交通の最適化については、地域公共交通計画に基づき、１０月に、吉野、大虫、国高地区において、市民バスから予約のりあいタクシーに移行します。まちなかの市民バスについても、１０月から、市街地循環南ルートと郊外の南ルートを一体的に統合し、運行エリアを東西に分けた市街地循環南東ルート、南西ルートに再編します。高齢者の通院や高校生の通学にも使いやすいルートとしたほか、１周当たりの乗車時間の短縮など、まちなかの移動がより便利になるよう、見直しを行いました。また、郊外の予約のりあいタクシーの新しい愛称については、７月の地域公共交通活性化協議会において、「車を呼んで利用する」ことを親しみを込めて表現し、平仮名で「よぼっさ」に決定しました。市民バス「のろっさ」とともに、愛称の周知と合わせ、第３次実証実験の検証を踏まえ、令和９年度からの本格運行に向けた準備を着実に進めます。

交通環境の充実は、市民の利便性向上だけでなく、ユネスコ創造都市ネットワークの加盟を契機とする新たな交流人口の拡大や観光振興にもつながる重要な基盤です。

令和７年の市外からの観光客入込実人数は約１０９万人となり、北陸新幹線県内開業前と比べ約２２万人の増となりました。また、観光消費額についても、令和７年は約５３億円となり、約１８億円の増加となりました。

４月から実証運行している観光タクシーでは、延べ８４２人が利用し、そのうち約３割が海外旅行者となっています。利用者アンケートを実施し、事業効果や旅行者ニーズの把握を行い、分析結果を踏まえて、今後の観光客数、観光消費額の増加につなげます。

越前和紙産地を中心としたエリアにおける滞在時間と観光消費額の増加を目的とする越前和紙バレー創造事業では、宿泊施設「^す ^く ^は ^な ^れ S U K U h a n a r e」が

10月のオープンに向け、整備が進められています。1棟目の「S⁺U⁺K⁺U⁺」では越前和紙を使用したオリジナルの和本を完成させる和綴じ体験メニューがつけられ、また、工房の見える化や物販を始める事業者が増加しています。さらに、大瀧神社の屋根の全面葺替えが36年ぶりに行われるなど、官民連携により受入れ環境が整備されています。今後も、案内サインや和紙の里通りの歩道、ベンチの整備を進め、地域とともに、エリアの魅力向上につなげます。

地域経済を支える中小企業・小規模事業者にとって、事業承継は、雇用や技術、地域のにぎわいを次世代へつなぐ重要な課題となっています。最近では、後継者不在により廃業を考えていた市内飲食店において、新たな担い手への事業承継が実現しています。事業承継は、地域に根差した事業や雇用を守ることにもつながります。今後も、武生商工会議所や越前市商工会、福井県事業承継・引継ぎ支援センターなど関係機関と連携し、個別相談会の開催や情報発信を通じて、事業承継への理解促進と機運醸成を図るとともに、早い段階からご相談いただけるよう支援を進めます。

有機農業の推進については、7月20日に、県が主催する「ふくいオーガニック・グリーンアカデミー」がサンドーム福井で開講しました。来年7月まで全7回にわたり開催される「有機コース」では、本市からも5人の農業者が参加し、座学や現地研修、ワークショップを通して、有機農業の栽培技術や経営手法を学びます。また、8月18日には、JA、県丹南農林総合事務所、生産者、本市が参画する越前市有機農業産地づくり推進協議会において、有機米栽培の実践講座を開催し、32人が参加しました。この講座は、本年度全4回開催予定です。これらの研修や講座の実施を通じて、有機農業への転換を促進するとともに、有機農業を実践する農業者の育成・確保につなげます。

シカ、イノシシ、サルなどの有害鳥獣による農作物への被害は依然として深刻です。特にシカ、イノシシについては個体数が増加し続けており、捕獲も前年度を上回るペースで推移する中、簡易的集合埋設設備による処分数が計画どおり進んでいないため、焼却処分に係る所要額を補正予算案に計上しました。鳥獣被害は、農業者だけの問題ではなく、地域の暮らしや営みを守るために地域全体で考えていく課題として、市民の皆様とともに力を合わせて進めていきたいと考え

ています。

さらに、土地改良事業については、今立土地改良区において、土地改良施設が破損し令和9年度の営農に支障が生じることから、必要な復旧工事を支援するための所要額も補正予算案に計上しました。

3つ目として、「元気で」幸せ溢れる100年人生実現について申し上げます。

障がい者計画の改定については、障がいのある方やそのご家族、福祉事業所とワークショップを開催し、多くのご意見をいただいているところです。9月26日には「市長との意見交換会」を開催し、当事者やご家族の皆様と直接意見交換を行い、議論を深めます。日頃感じておられる課題や将来への思いをしっかりと受け止め、今後の計画づくりや施策の推進に生かしてまいります。

健康長寿の推進については、高齢者の皆様が安心して介護サービスを利用できる環境を整えるため、国庫補助を活用し、市内介護施設の空調設備更新に対する支援を行う補正予算案を計上しました。また、9月12日には、認知症月間に合わせて「オレンジハートハーモニーEchizen2026」を開催し、認知症予防の講演会や脳の健康度チェックなどを行い、認知症に関する正しい理解の促進と早期相談につなげます。

日常的にスポーツに親しみ、体を動かす習慣を広げていくことも大切です。

6月26日から7月26日まで開催された市民スポーツ大会には、23競技に、1,768人が参加しました。

また、本市では、私自身も監督として参画するトップアスリートチーム「e☆SPARKLE」と連携し、市民の皆様がスポーツの楽しさに触れられる機会を創出しています。7月26日に開催した「e☆SPARKLEバイク」には45人の参加があり、吉野瀬川ダムを巡るサイクリングを楽しみました。また、8月14日にアイシンスポーツアリーナで開催した「スポーツサマーフェスティバル」には、延べ400人の参加があり、私もメンバーとともに運営に携わり、競技体験会やトップアスリートによるトークショーなどを通じて、スポーツの楽しさや魅力を体感しました。

さらに、市民の健康づくりと生きがいづくりの拠点となる施設整備も進めて

います。武道館耐震補強等工事は、9月中に完了する予定であり、10月11日にリニューアルオープン式典を開催します。耐震補強に加え空調設備も整備することで、施設を利用される皆様にとって、より安全で快適な環境が整います。

4つ目として、「楽しく」教育・子育てについて申し上げます。

まず、学校の適正規模・適正配置について申し上げます。

本市では、将来にわたりこどもたちにとってより良い学びの環境を確保するため、8月20日に第1回「より良い学びの環境」に係る学習会を開催しました。各校のPTA代表者や校長、地区の代表者にご参加いただき、児童生徒数の推移など、学校の将来見通しを共有しました。その後、学校ごとの意見交換や中学校区ごとのグループワークを行い、参加者の間で活発な意見が交わされました。今後も学習会や先行事例の視察を重ね、現状や課題、「より良い学びの環境」を考える上で必要な視点を共有しながら、理解を深めてまいります。

坂口校については、坂口小学校を令和9年4月に神山小学校に統合し、武生第二中学校坂口分校を令和10年4月から本校に一本化するための条例改正案を今議会に上程しました。去る6月24日には第1回通学準備委員会を開催し、総務、PTA、学校運営、通学・安全の4つの部会において、通学の安全確保やスクールバスの運行に係る準備、閉校式や備品の移転、学校生活などに関する検討事項を確認しました。児童・生徒が安心して新たな学校生活を迎えられるよう、引き続き円滑な移行に向けた協議・調整を丁寧に進めます。

学びの環境づくりと併せて、安心して子育てできる環境の充実にも力を入れています。

家久保育園と吉野幼稚園を統合し、令和9年4月に開設する認定こども園の名称は、両園の園児と保護者による投票の結果、平仮名で「よしのこども園」に決定しました。新たなこども園の設置並びに長期間休園している坂口幼稚園、王子保幼稚園及び味真野幼稚園を廃止するための条例改正案を今議会に上程しました。安全かつ着実にこども園の整備を進めるとともに、幼児教育の機能をしっかりと確保しながら、多様化する保育ニーズに対応できる環境づくりを目指します。

屋内遊び場については、8月4日の供用開始以来、天候に左右されることなく安心して遊べる施設として、休日を中心に多くのこどもたちや保護者の皆様に

ご利用いただいています。今後も、愛称「らくまるパーク」に込められた願いである、文化や世代の違いを超え、個性を尊重しながら、「みんながまるくつながる楽しい遊び場」として市民の皆様に親しまれる施設となるよう努めてまいります。

児童センター・児童館は、こどもたちの大切な居場所です。近年の猛暑に伴う熱中症対策や、放課後児童クラブの過密化解消を図るため、計画的に遊戯室等への空調設備設置を進め、まずは、武生南児童センターと吉野児童館の整備費を補正予算案に計上しました。併せて、民間が運営する放課後児童クラブに対し、照明のＬＥＤ化をはじめとする環境改善を支援するための補正予算案も計上しました。

児童発達支援センター「なないろ」では、令和５年度から発達支援業務の一部を民間事業者へ委託し、専門的支援の充実を図ってまいりました。令和９年度からは、現在委託している個別療育に加え、集団活動への適応を目的とした小集団療育を新たな対象とし、委託範囲を拡大します。このため、今議会に５年間の債務負担行為を計上し、プロポーザル方式による事業者選定を進めます。今後も、行政と民間それぞれの強みを生かしながら、地域全体の発達支援体制のさらなる充実に努めます。

最後に５つ目として、「人の絆」で行財政システム改善について申し上げます。

市民の皆様に信頼され、ともに未来を築く市役所であり続けるため、令和６年に策定した「行財政システム改革プラン２０２４」に基づき、市民サービスの向上と市役所の風土改革を推進しています。本年度は現プランの最終年度に当たることから、これまでの成果と課題を検証するとともに、市民と職員双方の幸福実感のさらなる向上と持続可能な自治体運営の実現に向け、新たな視点を取り入れた次期プランの策定を進めています。７月２９日に開催した第１回市政システム改革推進委員会では、ＤＸの推進や働きやすい職場環境づくり、開庁時間の見直しといった現在進めている改革や、今後の方向性についてご議論いただきました。就任以来実施している職員との職場ミーティングもこれまでに１９回を数え、現場の声を取り入れながら、職員が力を発揮できる職場づくりと市民サービスの

向上につなげます。

また、行政運営の透明性を高めるため、越前市情報公開条例の改正案を今議会に上程しました。議会や関係者の皆様からいただいたご意見を踏まえ、デジタル時代に対応した、より利用しやすい情報公開制度となるよう、公開方法の拡充や手数料の設定などの見直しを行っています。

財政面では、令和7年度決算において、歳入歳出の差引である実質収支は、約5億8千万円の黒字、市債についても、将来負担を考慮し、新規の発行額を償還元金以下に抑えた結果、市債残高が最も多かった令和元年度の483億円から約90億円減の393億円となりました。また、市の貯金である財政調整基金の残高は、スクラップ・アンド・ビルドの実施に加え、市税や地方交付税の上振れ等もあり、令和6年度より約6億円増の24億円となりました。今回の補正予算案において、繰越金の半分となる2億9,100万円を積み立てますが、中東情勢の影響やさらなる物価上昇、国の税制改正や少子高齢化の進展など本市を取り巻く環境は今後益々厳しくなることが予想されます。このような状況においても、引き続き、財政の健全化と安定化に努めながら、持続可能でメリハリのある財政運営を行ってまいります。

公共施設の適正管理につきましては、公共施設等総合管理計画が策定から10年を迎えることから、現在改定作業を進めております。今回の改定では、施設総量の適正化に加え、維持管理や改修、更新に要する将来的なコストの縮減という視点を重視してまいります。併せて、より実効性を高めるために総務省アドバイザーの支援を受けながら、施設ごとの老朽化の状況や利用状況、維持管理コストなどを客観的に把握できるよう見える化を進めるとともに、公共施設マネジメントを推進する仕組みづくりを整理しているところです。特に、大規模な改修や更新が見込まれる施設など、市民サービスや将来の財政負担に大きな影響を及ぼす施設については、必要に応じて外部有識者等を含めた附属機関を設置し、専門的かつ多角的な視点からそのあり方を検討していくことを想定しています。こうした考え方のもと、休館・改修中の「しきぶ温泉湯楽里」は、この先、大規模な改修や設備更新が見込まれることから、他の施設に先行し、今後のあり方について具体的な検討に着手いたします。このため、越前市附属機関設置条例の改正案

を上程するとともに、委員報酬及び建物・設備の状況、利用実態、将来負担等を専門的に調査・分析するための委託費を補正予算案に計上しています。今後は、湯楽里での検討をモデルケースとして生かしながら、市民の皆様や議会との丁寧な議論を重ね、持続可能な公共施設の運営管理に努めてまいります。

そして、何よりまちづくりの主役は市民の皆様です。就任以来、私は、市民の皆様との対話を重ねながら市政を進めています。

地域自治に関しては、地域ミーティングを9月10日の北日野地区を皮切りに、市内17地区で開催します。各地区の自治振興会をはじめ地域で活動されている皆様との対話を重ねる中で、地域の特色や現状、課題などを把握するとともに、地域の皆様の思いや願いを丁寧にお聴きしていきます。

地域コミュニティを支える自治組織のあり方については、本年5月に立ち上げたワーキンググループにおいて、自治振興事業の業務内容を整理し、事務量や役割分担の実態を把握するため、現在、地域支援職員が各地区自治振興会において実態調査を行っています。調査を通じて業務の見える化を進め、地域活動を担う皆様の負担軽減と運営の効率化を図り、持続可能な地域コミュニティの実現を目指します。

また、市内の大学や高校等への訪問をはじめ、各種大会の激励会や市役所を訪れるこどもたちとの交流など、様々な機会を通じて次代を担う若い世代との対話を重ねています。8月13日に本市出身の大学生や高校生自らの企画・運営により開催された「若者トークフェス」では、市内の小・中・高校生や本市出身大学生を中心に若者が集い、私や各分野で活躍する方々とともに、越前市の未来に向けたアイデアや夢、まちへの思いを語り合いました。

まちなかにおいても新たな動きが生まれています。蓬萊町にある旧寿司店の空き店舗に日本料理店の新規出店が予定されているほか、総社大神宮秋季例大祭に合わせて、まちづくり武生株式会社やまちなか出店者の有志による「たけふ祭り」が開催されます。また、9月19日には、市役所庁舎前ひろばにおいて民間事業者によるファッションショーが予定されています。さらに、8月5日には、まちなかの経営者が中心となり、若者たちが自由なアイデアを語り合う「まちなかふらっと会議」が開催され、今後も定期的な実施が予定されています。多様な

人々がつながり、新たな挑戦や活動が生まれる場として期待されています。

私は、若者たちの主体的な活動も、まちなかでの新たな挑戦も、安心して自分らしく過ごせる「居場所」と、自らの可能性を伸ばし発揮できる「舞台」があってこそ生まれるものだと考えています。人口減少や少子高齢化が進み、社会環境が大きく変化する時代にあっても、「居場所」と「舞台」のあるまちには未来があります。誰もが自分らしく輝き、幸せを実感できるまちづくりを進めていかなければなりません。

こうした考えの下、「越前市民の幸福に関する条例」については、これまで議会や市民の皆様からいただいたご意見を踏まえ、市民の幸福実感の向上とその最大化を市政全体の使命として明確に位置付けるため、制定に向けた条文案の策定作業を進めています。このたび、これまでのご意見や市民アンケートの結果を反映した素案をとりまとめ、議会にお示しさせていただいたところであり、今後は、12月議会での議案上程に向けて最終調整を進めてまいります。

また、来年度は「総合計画2023」の策定から5年目を迎えることから、基本計画の見直しを進める予定です。その見直しにも生かすため、今議会に、「居場所」と「舞台」をテーマとした福井県立大学との共同研究に係る補正予算案を計上しました。この研究成果も活用しながら、誰もが幸福を実感し、誇りをもって暮らし続けることができる「創造都市・越前市」のさらなる発展のため、全力前進で市政を進めてまいります。

以上、当面する市政の諸課題について述べさせていただきました。

何とぞ、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。